

# 11月消費者物価 3.7%上昇

## 40年ぶり伸び止まりぬ値上げ

11月の消費者物価指数(2020年=100)は、値動きの大きい生鮮食品をのぞいた総合指数が103.8で、前年同月より3.7%上がった。上昇率は第2次石油危機後半の1981年12月以来、40年11カ月

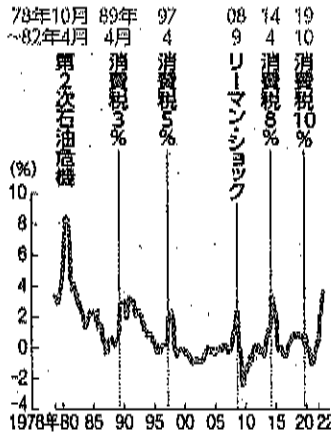
ぶりの大きさを、身近な食品の値上げが続き、消費意欲の悪化につながっている。▽8面＝値上げ進まず  
総務省が23日発表した。上昇は15カ月連続で、日本銀行が物価安定目標にする2%を超えるのは8カ月連続

ぶりの大きさを、身近な食品の値上げが続き、消費意欲の悪化につながっている。▽8面＝値上げ進まず  
総務省が23日発表した。上昇は15カ月連続で、日本銀行が物価安定目標にする2%を超えるのは8カ月連続

・9%上昇と大きく伸びたが、ガソリンは政府の補助金の影響などで1年9カ月ぶりに下落に転じた。  
原材料の高騰で値上がりが目立つ家電などの家具・

家事用品が7.3%、生鮮食品をのぞく食料は6.8%上昇し、いずれも81年2月以来の伸び率となった。  
11月は大手生乳メーカーがそろって値上げするな

消費者物価指数は第2次石油危機以来の伸びに生鮮食品を除く総合。前年同月比



ど、生活に欠かせない食品の値上げが収まる気配はない。内閣府の調査では、物価を受け、消費意欲を示す指標の悪化が続く。  
帝国データバンクの調査によると、今年は2万品目超の食品が値上がりした。来年1~4月も、今年と同

期期の1.5倍の7千品目超が値上げされる予定だ。政府は年明け以降、家庭の電気代負担を軽減するなどして、消費者物価を1.2%引き下げるとしている。だがそれをふまえても、日本経済研究センター

がまとめた民間予測の平均では、来年前半まで2%台の物価上昇が続くと見られる。

の物価上昇が続くと見られる。 (北川 隆二)